

ちょっと読んでみませんか（令和元年秋彼岸）

第51話『仏様からのプレゼント』（本源寺副住職 本間健司）

この夏も“危険な”猛暑となりましたが、体調管理に気を付けながら、例年通りお盆の棚経にお伺いさせて頂きました。

一軒一軒訪問する棚経においては、一心にお経を上げさせて頂く清浄さや心地良さと共に、檀信徒の皆さんとの会話も実は楽しみの一つです。

もちろん、時間に限りがありますので短時間の滞在ではありますが、ほんの少しの会話の中に、心に深く残る言葉に出会うこともあり、そんな時、これは“仏様・菩薩様からのプレゼント”だと思つて、大切に心にしまつようになっています。

そこで、今回は、このお盆の棚経のなかで特に印象に残つた言葉をお話しさせて頂きます。

①「いろいろ押し付けちゃってごめんなさいね」

お孫さんを「祖母の手」一つで育ててこられた、80代のおばあちゃんとの会話からです。

そのお孫さんもようやく高校を卒業され、ホツとする気持ちもあるものの、自分がいつまで元気にお孫さんの世話をしあげられるのか不安を感じる日々だそうです。

このおばあちゃんは料理が得意で、お孫さんの健康を気遣つて、いつも自家製野菜を使った料理やお菓子を工夫して作ってこられました。

私が棚経に向う際にも「お子さんにあげてね」と、手作りのお菓子等をいつも手渡してくれるのですが、今回は、お菓子や保存食と一緒に、2つのビーチボールを持ってきてくれたのです。

「いつか孫が使うかと思つてずっと取つてあつただけど、結局一度も使わなくてね。もしよかったら、お子さんにあげて。」と。

感謝の言葉を伝えながら少し会話を交わした後、お礼を言つて帰ろうとしたとき、おばあちゃんは、冒頭の言葉をささやくように発せられたのです。

早くに息子さんを亡くされ、悲しむ間もなく、お孫さんを立派に育てあげることには奔走してきたおばあちゃん。その言葉には、なんだか“謙虚”という言葉では言い尽くせない、おばあちゃんの深い優しさや思いやり、そしてまた、長年押し込めてきた悲しみや辛さも感じられるような気がして、私の心に深く響いたのです。

「来年も元気で会いしましょうね。」私はこの言葉を返すのが、やっとでした。

②「おぶくろの、あの言葉が悔しくて、忘れられなくてね。」

ある不動産会社の社長さんのお宅です。

いつも社長さん自らが対応して下さり、少し会話を交わすのですが、今回はやはり猛暑の話題になりました。

「この前のゴルフは暑くてね、歩くのがやっとだったよ。」と、会社のお付き合いのゴルフの話がされた後、「ここ数日は、管理地の除草作業で、もう身体が参っちゃいそうだよ。」と言われたのです。

私が思わず、「えっ？ 社長さん自らが作業をされるんですか？」と聞き返した時、社長さんは冒頭の言葉を発せられたのです。

実はこの社長さんのお母さんは、とても明るく豪快な方で、いつも管理地の草取りはお母さんが一人でされていました。そのお母さんは数年前に急死されたのですが、お母さんのことを色々思い返していた時に、次のお母さんの言葉を思い出したそうなのです。

「わたしがいなくなったら、どうせうちの土地は草だらけになるんだろうねえ…」

社長さんは、そのお母さんの言葉を想い返すと悔しくて、あの世から見ているお母さんを見返してやりたいという思いで、自ら除草作業をしていることでした。

私の記憶にも印象深く残っているそのお母様が、息子さんを温かく見守り励ましているような気がして、“生死を越えた”母子の絆を感じました。

③「それが、ぜんぜん寂しくないのよ。主人に怒られちゃうかしら。」

ご主人様を六月に亡くされたばかりの、八十年代後半のご婦人のお宅です。

いつも訪問すると、茶菓子を頂きながらご夫婦と会話を交わしていたのですが、本当に仲が良く穏やかなご夫婦で、二人のやり取りを聞きながら、こちらまで穏やかな幸せな気持ちになりました。

九十歳を過ぎたご高齢とはいえ、仲睦まじかったご主人さんを亡くされたショックできつと寂しく落ち込んでいるだろうと、そう覚悟してお宅にお邪魔しました。

しかし意外にも、奥さんは以前と変わらず笑顔で私を出迎えてくれたのです。そして、新盆の御回向を終えた後に、さりげなく「ご主人さんを亡くされて、大丈夫ですか？」と尋ねた時に、いたずらっぽい微笑みと共に返ってきたのが、冒頭の言葉だったのです。

もちろん、亡くされてまだ一か月半しか経っていませんから、実感が沸かなかつたり、また、強がっている部分もあるかもしれせん。ですが、奥さんの笑顔からは、

“充分にご主人さんと心の通い合いが出来た。また、目いっぱい尽くしてあげられることが出来た”という満足感や安心感、また自信のようなものも感じられたのです。

《身近な人との時間を大切にする》そんな当たり前のことを、ご夫婦から肌で教わったような気がしました。

いかがでしたでしょうか？

『法華経』には「私(お釈迦様)は、仏という姿で教えを説き示すこともあれば、他の姿かたちを取ることもある。また、直接的に仏の知恵を説くこともあれば、様々なことを通じて説き示すこともある。」との教えがあります。

最初に、“仏様・菩薩様からのプレゼント”という表現をしましたが、棚経等を通じて皆様と直接触れ合い教わることは、本当に、仏様の“生きた”教え・メッセージであるような気がするのです。

今後も、お忙しいところにお邪魔させていただきますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

合掌 南無妙法蓮華経